

令和3年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園 中央情報経理専門学校

学校関係者評価委員会

中央情報経理専門学校 学校関係者評価委員会は「令和3年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和3年8月4日に実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

- 企業等委員：佐藤 昌義 (佐藤昌義税理士事務所)
企業等委員：福本 和章 (株式会社CRI中央総研)
企業等委員：鈴木 典浩 (前橋赤十字病院)
企業等委員：村山 良明 (社会福祉法人あそか会)
卒業生：曾我 美津子 (中央情報経理専門学校 卒業生)
保護者：清水 貴文 (中央情報経理専門学校 保護者会長)

2. 学校関係者評価委員会の流れ

学校関係者評価委員会では、自己点検・評価結果について検討いただき、ご意見をいただく。まず、学科単位で行われる分科会にて評価結果ならびにその内容について詳しく説明し、自己・点検評価について理解を深めて頂いた。その上で、本委員会においては学科単位での評価を踏まえて、学校全体の自己点検・評価について説明し、その評価を検証していただくとともにご意見ご助言等を頂いた。

3. 令和3年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(中央情報経理専門学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目標	●本校の理念や目的、目指す学生像について保護者への説明機会が少ない。	○年度初めに学科ごとの教育目標・スケジュールを設定したが、学校全体の教育目標は時代の変化から見直しの時期に来ている。尚、保護者への説明機会については、保護者会(年二回実施)やビフォーアスクール(入学前に実施)等に参加してもらい周知の機会を増やす。また、保護者会の担任面談における全体会を、オンライン等を利用して幅広い参加を促す。

<p>2. 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●課題目標は設定されているが、実現のための対策・計画が不明瞭だった。 ●専任教員のみで全てのカリキュラムを進めることは難しいため、非常勤講師に頼る部分が多い学科もあるが、予算等の関係で内部化が必要なところもある。 ●現状、管理職の多くがクラス担任並びに他クラスの科目担当にもなっており、学校マネジメントに支障が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3か月管理ボードを設定し、毎月進捗管理できるようにした。 ○非常勤講師を多く雇うには学生募集を成功させ、財源を確保する必要がある。 ○計画・パンフレット作成、広報活動、学校行事を計画的に行い、管理職の負担を減らしながら成果を上げていく。
<p>3. 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●（保育福祉学科）3年制は時間の余裕があるはずだが、当校では授業時間が多く学生が自由に使える時間が少ない。 ●（情報ビジネス）キャリア教育・実践的な職業教育の接点に立ったカリキュラム（CCG共通ミッションプログラム・キャリアデザイン）を校内でも先駆けて導入段階にあるが、学校行事がコロナ禍で計画通り実施できないためなかなか成果を出せずにいる。 ●（情報経理）守秘義務に関わる部分が多く、インターンシップ実習になじまないため実行できていない。 ●企業との繋がりは専門学校としての強みと言っていいのでは（鈴木） 	<ul style="list-style-type: none"> ○適正な授業時間数の設定、学生の自主学習を前提としたカリキュラムに変更していく。 ○キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲの教師用テキストを作成し、全学科に展開できるようにする。 ○次年度以降、実行可能である販売分野でのインターンシップを検討中。 ○都市部とは異なる、地方の地元企業との繋がりを強みとして大事にしている。
<p>4. 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学科によって前年度・目標値と比較し評価。 （情報経理）日商簿記2級合格者（50%）は回復傾向にある。 （情報ビジネス）日商簿記3級合格者（30%）は全国合格率とほぼ同じ。 ●カリキュラムの評価については年度末に行い、次年度の編成に活用しているが、文書として保存しているわけではなく、PDCAをうまく回せていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○R4年度以降はIT会計マネジメントコースとする予定。 ○カリキュラム編成に係る報告書作成の保存を行っていくと同時に、新学科コースについては少なくとも3年はカリキュラムを定着させる時間が必要。学科の方向性を自分達から提案していくようにする。

<p>5. 学生支援</p>	<p>●図書室やカウンセリングについては不足している。</p> <p>●カウンセリング（メンタルヘルス）は現代では重要。検討するだけでなく、優先順位を高くする必要がある。（鈴木）</p> <p>●医療施設では2名の診療心理士が常駐していて、情報については人事課のみで把握している。このような体制はどの組織でも常識。オンライン環境を上手く使用して運営すれば良いのでは。（鈴木）</p> <p>●カウンセラーは聴き方が上手なため、職員についても定期的に話を聴ける環境を作ると良い。学校職員のメンタルヘルス及び労働環境についてはどうなっているのか。（鈴木）</p>	<p>○通信制の入学生も増加し、対応が難しい学生も増えてきている。常駐は難しいと思うが、スクールカウンセラー等に定期的にサポートが受けられる体制を作りたい。</p> <p>○グループ内では定期的にカウンセラーが来ている学校もあるが、当校に常駐できるように体制を作らなければならない。</p> <p>○現在学生に対してのケアはクラス担任がほぼ賄っている状況で、それでも解決しない場合は管理職が面談しているのが現状。</p> <p>○職員は「教育」という業種に対する満足度は高いが、労働面の条件は低いのが現状である。今後は生産性を上げていく必要がある。</p>
<p>6. 教育環境</p>	<p>●学内の自習施設については不十分（教室のキャパシティ、ネット環境）</p> <p>●インフラ整備は必要最低限の事。学校マネジメントに支障が出ているのであれば大きなメスを入れる時期。（鈴木）</p> <p>●インターンシップについては学科によって実施が難しい分野もあるが、現状実施している学科についても前向きな見直しを行い、デュアルシステムの導入を検討したい。</p>	<p>○費用が掛かるため、可能な範囲で施設の整備を行っていきたい。今夏1号館の塗装工事を行い、オンライン環境の充実を図る。</p> <p>○来年はこの項目が改善しているように取り組みたい。</p> <p>○協力してくれる企業を見つけて積極的に実施していくと共に、学生と受け入れ先企業双方にメリットがあるものにしていきたい。「やって みて 考える」の経験学習サイクルを回せるように指導する。</p>
<p>7. 学生の受入れ 募集</p>	<p>●学生募集については厳しい状況。</p>	<p>○情報発信についてもSNSやホームページを有効に使い、募集人数が増えるよう効果的に進めていく。</p>
<p>8. 教育の内部質保証システム</p>	<p>●自己点検評価は公開しているが、判明した問題について年度重点課題と連動せず、改善するための対応に若干の遅れがある。</p>	<p>○学校マネジメントと教育課程編成委員会・学校関係者評価委員などを体系的・計画的に行いPDCAを回して、マネジメントの有効性を図る。問題点については判明次第、迅速に取り組み改善する。</p>

9. 財務	●財務基盤を中長期的に安定したものとするため、入学者の安定確保が重要であり、募集が順調に伸びるかがその要である。	○予算案・収支計画は入学者数の見込みに基づいており、有効かつ妥当なものとなっているため継続して行う。本質的には「学生の夢（資格と就職）を実現する」学校になることが募集力の決め手になると考え、教育と就職指導の質的向上を目指す。
10. 社会貢献・地域貢献	●行っているが十分とは言えない。	○企業連携と同様に地域との連携を視野に入れ、地域に貢献するようなカリキュラムを研究していく。中之条ビエンナーレ、群馬マラソン等にボランティアで参加予定。
11. 国際交流	●コロナ禍の影響もあり留学生の募集については厳しい状況。	○日本語学校等へのアプローチを積極的に行い、オープンキャンパスへの動員を増やす事で、少しでも入学に繋がるようにする。

3. 総評

上記11項目に対し外部の学校関係者委員に報告を行ったところ、中央情報経理専門学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価していただいた。しかし、改善すべき点も散見された。特に職員の働き方については、時間外労働の管理、メンタルヘルス等は見直す必要があった。また、学習に必要な環境整備も手を付けられるところから進めていきたい。

以上